



本橋校長先生にインタビュー

ホー
ホケキョ!

校内一の読書家でおられる本橋校長先生にお話しを伺いました。一生読書を楽しむためのヒントをお聞きできた気がします。ご覧ください。

Q1. 本(読書)が好きになったきっかけとなった本(又は出来事)はなんですか？

奥野小学校に在学している時に、担任の先生から「本を読みましょう。」と言われたことです。先生は私たちの親にも「他の学習はともかく、本だけは読ませてください。」と言っていました。小学校の時は、奥野小学校の図書館にあったノンフィクションの登山記や伝記などをよく読みました。もうひとつの要因は、父の本棚から無断で持ち出して読んでいるうちに本が好きになったことです。

Q2. 校長先生が中学&高校時代はどんな本を読まれていましたか？

中学・高校時代は、文学では五木寛之、吉行淳之介、太宰治、織田作之助、田中英光、森鷗外、谷崎潤一郎など、ノンフィクションでは吉村作治のエジプト学の本などを読んでいました。

Q3. 一中生へおすすめの本を教えてください。(本の題名とおすすめポイントも)

「世にもあいまいなことばの秘密」(川添愛 ちくまプリマー新書 2023年)

ことばに関する感性が豊かになりそうな本です。私もこれから読んでみます。

「雁」(森鷗外 1915年)

読むと人生観が変わるかもしれない小説。身の回りの必然と偶然について考えさせられます。中学時代にはわからなくても、大人になって人生経験を積めば共感できるかもしれません。

「少将滋幹の母」(谷崎潤一郎 1950年)

このような小説を書けるのは谷崎潤一郎だけではないかと思うような美しくも奇想天外な物語。ラストシーンでは、涙を禁じ得ません。

Q4. 牛久一中生へメッセージをお願いいたします。

一中生の皆さんは、毎日朝読書をしているので読書することには慣れていると思います。しかし、選書に偏りがある人も多いのではないのでしょうか。これからは「まず自分では選ばない本」に出会って読書の幅を広げることです。例えば、誰かに紹介された本、新聞の書評で知った本などです。本屋さんで選ぶのもいいけれど、どうしても自分の好みにも偏りますよね。私もそうなります。だから、最近は日曜日の新聞に掲載される書評や文藝春秋などの月刊誌に紹介される本をチェックするようにしています。私の座右の銘のひとつは「本は人をつくる」。みなさんはどんな本を読んでどんな人になっていくのでしょうか。 本橋和久